

今月のトピックス 「コムギの生育が早く赤かび病の発生も早くなることが予想されます！！」

コムギ赤かび病は主に開花中に感染する病気で、気象要因、生育状況、品種の違いによって発病程度が大きく左右されます。

(1) 気象要因 :

津地方気象台によると 12 月～2 月までの冬期の 3 ヶ月間の平均気温は県内各地で過去最高気温を記録し、津では 3 ヶ月間の平均気温が 7.8 と気象統計のある 1890 年から 2007 年で最高の気温となりました。

名古屋地方気象台によると 3 月 16 日に発表した向こう 1 ヶ月間の気象予報では 4 月中旬までは気温は高くはなく、降水量は平年並みと予想されています。

(2) コムギの生育状況 :

暖冬の影響でコムギの圃場では生育が早まっています。平年だと「農林 61 号」の出穂は 4 月 16 日、「あやひかり」は 4 月 11 日ですが、3 月 9 日に中央農業改良普及センターが発表したコムギ生育情報によると、全体的に生育は良好で茎数も多く経過しており、3 月下旬に出穂、4 月上旬に開花となると見込まれています。3 月中旬以降気温は低く推移していますが、コムギの出穂は例年より 1 週間から 10 日ほど早くなることは間違いないでしょう。出穂後気温の低い日が続くと、出穂から開花までの日数が長引く傾向があります。なお出穂時期はコムギの品種、播種時期、栽培地域や圃場によっても異なってきます。

(3) コムギの品種 :

平成 18 年度の三重県主要農作物奨励品種特性表によれば「あやひかり」は

赤かび病に対して「やや弱」ですが、「ニシノカオリ」、「タマイズミ」、「農林 61 号」は「中」となっています。2004 年に農業研究部でそれぞれの品種の赤かび病抵抗性を評価するために 30m²当たりの発病穂数を調べたところ、「あやひかり」は 66.7 本、「タマイズミ」は 11.0 本、「農林 61 号」は 0.6 本、「ニシノカオリ」は 1.2 本となり、「あやひかり」や「タマイズミ」は「農林 61 号」や「ニシノカオリ」よりも罹りやすい品種だということがわかりました。

(4) 赤かび病のカビ毒 :

赤かび病は急性毒性を引き起こすカビ毒であるデオキシニバレール (DON) を産生します。厚生労働省はコムギに含有される暫定基準値を 1.1ppm、食糧庁は赤かび粒混入割合を 1000 粒中 4 粒以下に設定して、汚染したコムギが流通しないよう厳しい措置をとっています。

(5) コムギ赤かび病の防除適期 :

コムギ赤かび病の防除適期はコムギの開花期 (出穂 10 日後が目安) です。圃場の開花状況をよく観察して適期防除を心がけましょう。1 回目の散布後、開花が長引き開花期間に降雨が続くようなことがあれば、感染の恐れがありますので、さらに追加防除が必要になります。

農薬散布にあたっては隣接する圃場へ農薬飛散のないように細心の注意が必要です。